

08年 第35回東北理容競技大会

新生チーム第1部門髪屋選手敢闘賞 第2部門紺野選手3位入賞

主催 秋田県理容組合
平成20年7月21日

第35回東北理容競技秋田大会は、7月21日秋田県大湯村健康保養基地サンルール大湯で開催された。

開会式入場は前年度優勝者から第1部狩野・第2部湊・第3部松本さんいずれも岩手県。続いて、岩手県代表6人を含む53名が入場した。鷲谷秋田県理事長の歓迎の挨拶、来賓挨拶では秋田国民金融公庫支店長の「安売り競争する業種に繁栄した試しはない」という言葉が注目される。

優勝旗返還、秋田県代表の選手宣誓で各選手に闘志を漲らせた。会場は広く、空調もフル活動で照明が少し暗いが良い会場であった。

競技開始、新生チームは新しい歴史を積み重ねる第一歩を踏み出す。第1部門髪屋選手。本人は不満だろうが入賞ラインが見えたよう。結果は4位の敢闘賞、次は3位以上を目的に。第2部レイス

部門は、特に個々の審査員の感性に大きく左右される競技で、紺野選手は競技を楽しんでいる様子。仕上り良し。テクニクあり良い作品ができた。見事3位入賞。さらなる上位を目指して。佐藤選手は、挑戦が始まったばかりでこれからの選手。先輩や講師会の指導を得て頑張つて頂きたい。

第3部門フーガも審査員の感性が影響する部門であるから、白野選手は高得点の入るスタイルを意識して作る事。佐藤選手は良い指導者に恵まれているので、今後が楽しみこれからもチャレンジしてもらいたい。

第4部門ショート山の山崎選手。他の作品を見て分る通りもつと思いきって奇抜な作品を創作すること。でもこの第4部は、どう見ても審査できる作品とは思われないが、これに懲りずに今後がんばつて欲しい。

しかし、なんといっても大会に挑戦する選手には本当に頭がさがる。毎日毎日が練習の日々、強い精神力がなければ続くものではない。県大会で終った選手は来年に向け、心新たに挑戦してくれるようお願いする。

岩手の栄光は、昭和30年全国入賞から始まり、全国岩手大会で輝かしい成果を得るまで多くの歴史を作つて来た。特に昨年の東北大会では3競技全て優勝。全国大会は、第2部で8位入賞、第3部3位入賞という大きな1ページを追加した。新生チームは技術の岩手としての栄光と誇りを持ち、堂々とチャレンジ精神を持って輝かしい歴史を刻んで頂きたい。それが出きる人材と土壌は岩手県組合にはある。選手諸君は常に心に留めると共に組合店の支援に感謝の気持ちを忘れずに励むことを望む。

最後に、応援に来て頂いた組合員やご家族の方々、講師会の皆様に対し衷心より御礼申し上げます。選手達は、皆さんの応援や協力に大変元気づけられます。これからもご支援よろしく願います。

東北大会入賞者

- 第1部門クラシカルカット・イブニングスタイル
 - 優勝 佐藤 光高(宮城)
 - 2位 渡辺 友輔(福島)
 - 3位 今井 美幸(山形)
- 第2部門レイスカット・モードスタイル
 - 優勝 星野 剛(秋田)
 - 2位 藤谷 典之(秋田)
 - 3位 紺野真由美(岩手)
- 第3部門風g a
 - 優勝 高橋 聖拓(秋田)
 - 2位 村上 浩然(宮城)
 - 3位 菊地ひとみ(秋田)
- 第4部門トレンドイ・ショートスタイル
 - 優勝 辻 佑輔(山形)
 - 2位 後藤可奈恵(秋田)
 - 3位 杉本 強(秋田)

岩手県理容組合教育部